

第3期中期目標・中期計画における臨床研究総括報告書

診療科（部）名：障害者歯科治療部

主な臨床研究課題

- (1) 運動障害に対する歯科的アプローチによる予防法・診断法・治療法の開発
- (2) 歯科医療現場における他職種連携による障害当事者への支援に関する学際研究
- (3)

上記臨床研究の成果（発表済の論文がある場合はその論文を付記してください）

(1) 歯科スプリントを装着したチックのある患者において、装着前後のチックの程度を自記式のチェックシートで評価し、歯科スプリントがチック症状の改善に貢献するか否かを検討した。対象者は22名で7から27歳であり、男女比は16:6であった。患者の約64%でチック減少をみとめた。全体を通しチックスコアは約60%減少した。チック減少について性差はなかったが、若年者ほど運動チックが減少する傾向をみとめた。スプリント装着によりチックが悪化した者については、スプリントの使用を中止することで元の状態まで回復した。また重篤な副作用はみとめられなかった。（Mov Disord. 2019;34:1577-8.）

(2) 障害者歯科学・臨床哲学・臨床心理学という三領域からの学際的アプローチによって、障害のある子どもをもつ親の「生きづらさ」を改善するプログラムを開発した。障害当事者への歯科治療に並行し、その親の語りを聴き、その経験や感情を詳細に記述していく臨床哲学的アプローチと、一対一の対話を通じて心の変容を促す心理療法的アプローチを行うことで、親の心理状態の理解と支援をはかった。歯科医療現場での親支援は、親のサポートなしには生きることの難しい障害当事者の心身の健康状態、QOLの向上にも寄与することが考えられた。（障害者歯科 2017;38:16-23）

- (3)

第4期に向けての計画・展望

第3期の結果をふまえ、運動障害に対する歯科的アプローチによる予防法・診断法・治療法，障害のある人の家族の支援法の開発を行う。また，障害者歯科の患者特性をふまえ，快適に落ち着いて治療を受けられるユニバーサルな歯科診療空間の構築を目指した臨床研究を実施する。